



水戸芸術館 令和6年度事業計画

公益財団法人 水戸市芸術振興財団

目 次

水戸市芸術振興財団事業計画	1
音楽部門事業	3
演劇部門事業	21
美術部門事業	35
地域共催事業	50
中心市街地活性化事業	56
吉田秀和賞	58

令和 6 年度公益財団法人水戸市芸術振興財団事業計画

令和 6 年度水戸市芸術振興財団は、水戸芸術館において、これまでの実績を踏まえ、「新しい芸術文化を創造する」「国際的な視野にたって芸術文化の交流を行う」「楽しみながら考える」「市民の芸術文化活動の拠点となる」「都市の活性化に寄与する」を運営の基本理念に、芸術文化の創造と振興を図り、市民文化の向上のため、音楽・演劇・美術の各分野で多彩で魅力あふれる事業を実施してまいります。昨年 7 月に当館南側に 2,000 人収容の大ホールなどを持つ水戸市民会館が開館しました。当館と市民会館そして京成百貨店の連携によって、3 つの施設から成る愛称「MitoriO(ミトリオ)」地区の振興と中心市街地の活性化にも寄与してまいります。

公益目的事業として、音楽部門では、国内外で活躍する演奏家による「水戸室内管弦楽団」や「新ダヴィッド同盟」、昨年始動した「カルテット AT 水戸」の演奏会、注目すべき演奏家を招いての企画、地元演奏家によるコンサートなどを引き続き開催いたします。また、「水戸室内管弦楽団 子どものための音楽会」「市民のためのオルガン講座」などの教育普及事業を通して魅力あふれる音楽の世界に触れる機会をつくってまいります。

演劇部門では、プロデュース公演の開催、気鋭の演出家による公演、著名な俳優が出演する公演、地元のアーティストを紹介する「未来サポートプロジェクト」、さらに、狂言や落語の伝統芸能など舞台芸術作品を広く紹介し、演劇をより楽しむための様々な事業を展開します。教育普及事業では、「子どもミュージカルスクール」や劇団 ACM「小学生のための演劇鑑賞会」を引き続き行うほか、各種ワークショップなどにより幅広い世代が演劇に興味関心を深める機会を創出いたします。

美術部門では、テキスタイルデザイナー須藤玲子、映像やインスタレーションで活躍するアートユニット「山下麻衣+小林直人」、メディアを横断し土地固有の物語を構築する田村友一郎、躍動感あふれる画風の近藤亜樹による個展を開催いたします。教育普及事業では、「アーティストワークショップ」「小中学生のための学校訪問アートプログラム」など現代美術に触れる多様な企画を実施いたします。

また、中心市街地活性化事業として、市民会館では「サイトウ・キネン・オーケストラ プラス・アンサンブル」などの演奏会、「MitoriO」地区にて日比野克彦「明後日朝顔プロジェクト」などを開催します。そのほか「水戸芸術館・水戸市民会館 名建築を撮影しよう！」や両館の見学ツアー、「MitoriO ラッピングバス運行」などを実施いたします。

これらの事業に加え、当財団の公益目的事業として、芸術評論を対象とした「吉田秀和賞」を運営いたします。

このように、開館 34 年目となる本年はこれまで吉田秀和・小澤征爾両館長のもとで積み重ねてきた活動の成果を生かしながら、優れた芸術作品を提供する企画事業、子どもたちが豊かな感性を育むような教育普及事業、市民の様々な創作活動による「水戸市芸術祭」のほか、市民の憩いの場である広場での地域共催事業、水戸市民会館等と連携した中心市街地活性化事業を開催してまいります。また水戸芸術館メンバーズの拡大、広報活動の強化などにより、市民の参加と理解を深め、より多くの市民の支持をいただくように努めてまいります。

厳しい社会状況により芸術文化をめぐる環境もより厳しくなる中、地域や各種団体等との連携、そして公的支援、民間企業等の協力を一層強固にし、“一まちの中へ、人のこころに一 楽しもう、アート・生活・MitoriO を” を運営方針として掲げ、音楽・演劇・美術を身近で親しまれるものになるよう努め、人のこころに感動を生むような質の高い事業を実施することにより、公益財団法人としての運営の充実強化を図り、中長期的に安定した運営の確立を目指してまいります。

＜水戸芸術館の運営基本理念＞

- 新しい芸術文化を創造する
- 国際的な視野にたって芸術文化の交流を行う
- 楽しみながら考える
- 市民の芸術文化活動の拠点となる
- 都市の活性化に寄与する

—まちの中へ、人のところに—

楽しもう、アート・生活・MitoriO を

＜水戸芸術館の取組み＞

音楽、演劇、美術の3部門がそれぞれに、3つの事業を柱に取り組んでいます。

1 多彩で魅力あふれる企画事業

音楽、演劇、美術の各部門が、コンサートホール、劇場、現代美術ギャラリーの各専用空間を最大限に活用し、国内外で活躍するアーティストによる多彩で質の高い企画事業を制作・展開しています。

2 創作体験・学びの場としての教育普及事業

観客、聴衆として来館するだけでなく、創作活動に参加したいという人の意欲に応える事業や、芸術を学びたいという意欲を喚起するための手立てを、工夫をこらし実施しています。

3 地域との共催事業

地域の芸術家が出演・出品する事業や、地域を舞台にした公演・展覧会などを、様々な機関・団体等のまちづくりと連携して活動を展開し、都市の活性化に寄与しています。



小澤征爾館長が生涯を通じて情熱を注いだ芸術音楽の世界。その探求の道程は次世代の音楽家たちに受け継がれていきます。こうして何百年もの歳月に亘って繋げられてきた芸術音楽の核心に、触れていただくような事業展開を目指します。また、市民の皆様の芸術文化の創造と発表の機会を提供すると共に、幼児から高齢者まで芸術文化に親しんでいただく教育普及プログラムを実施します。

1. 世界へ発信する専属楽団企画

「水戸室内管弦楽団（MCO）」「新ダヴィッド同盟」「カルテット AT 水戸」による演奏会

2. 学芸員が独自の視点で企画するオリジナル企画

3. 国際舞台の最前線で活躍する名演奏家たちを招聘する企画

4. 茨城の演奏家が出演する企画 ～地域の音楽文化のいっそうの発展を目指して～

5. 教育普及事業 ～魅力ある音楽体験をすべての世代へ～

1. 世界へ発信する専属楽団企画

世界的に活躍する日本人演奏家を中心にした室内オーケストラである「水戸室内管弦楽団」。わが国のクラシック音楽活動の精華を、水戸から世界に発信します。

【水戸室内管弦楽団】(Mito Chamber Orchestra 以下 MCO) とは

1990年、水戸芸術館の専属楽団として、初代館長・吉田秀和の提唱により誕生しました。世界的に活躍した指揮者の小澤征爾が、2013年水戸芸術館の館長に就任すると同時にMCOの総監督となり、その運営にあたってきました。メンバーは、ソリストとして、またオーケストラの首席奏者として世界的な活躍を続ける精鋭たち。指揮者を迎える演奏会とともに、指揮者を置かないアンサンブルによる演奏会にも力を入れています。

日本人作曲家への委嘱も積極的に行っており、一柳慧〈汽水域〉、林光〈悲歌〉、平義久〈彩雲〉などの作品が初演されています。また、メジャーレーベルよりCD、DVDを多数リリースしております。

東京や大阪など水戸以外での館外公演も積極的に行っています。1998年、2001年、2008年にはヨーロッパ公演を行い、世界有数の室内管弦楽団との評価を確立しました。



水戸室内管弦楽団 第109回定期演奏会より ©Michiharu Okubo

5月25日（土）、26日（日）

水戸室内管弦楽団・別府アルゲリッチ音楽祭共同制作

水戸室内管弦楽団 第113回定期演奏会

～世界を魅了し続けているマルタ・アルゲリッチが、今年もMCOに帰ってくる！～



©Tereza z Davle

©Rikimaru Hotta

半世紀以上にわたって世界を魅了し続けているマルタ・アルゲリッチが、今年も水戸室内管弦楽団（MCO）に帰ってきます。指揮を務めるのは、類い稀な音楽性と温かい人柄でメンバーからも厚い信頼を得ているラデク・バボラーク。確固たる絆を育んできたMCOの名手たちとのステージをお届けします。

指揮：ラデク・バボラーク ピアノ独奏：マルタ・アルゲリッチ

曲目：

ブルックナー：交響曲 第1番 八短調 WAB.101（リンツ稿）

プロコフィエフ：ピアノ協奏曲 第3番 八長調 作品26

10月26日（土）、27日（日）

水戸室内管弦楽団 第114回定期演奏会



水戸室内管弦楽団 第105回定期演奏会より ©Michiharu Okubo

吉田秀和初代館長が提唱した「世界的に活躍する日本人演奏家を中心にした室内オーケストラ」というコンセプトにもとづき、小澤征爾館長を中心に日本で望みうる最高水準の演奏を追求してきました。小澤館長の遺志を受け継いで、これからもMCOは音楽探求の道を突き進みます。



水戸室内管弦楽団

総監督

小澤征爾

創立名誉総監督

吉田秀和

名誉顧問

小口達夫

楽団長

堀 伝

楽団員代表

猶井正幸

パーソネルマネージャー

志賀佳子

名誉楽団員

工藤重典（フルート）

水野信行（ホルン）

宮本文昭（オーボエ）

ヴァイオリン

安芸晶子＊

小栗まち絵

川崎洋介

佐份利恭子

島田真千子

竹澤恭子

田中直子＊

豊嶋泰嗣＊

中村静香

ヴィオラ

川崎雅夫

川本嘉子

店村眞積＊

チェロ

上村 昇

原田禎夫＊

宮田 大

コントラバス

池松 宏

フルート

セバスチャン・ジャコー

オーボエ

フィリップ・トーンドゥル＊

クラリネット

リカルド・モラレス

ファゴット

ダーク・イエンセン

ホルン

猶井正幸＊

ラデク・バボラーク

ステージマネージャー

佐藤昌樹

メモリアルメンバー

潮田益子（ヴァイオリン）

江戸純子（ヴィオラ）

ローランド・アルトマン

*運営委員

協賛：（株）アダストリア、NEC、水戸証券（株）、（公財）げんでんふれあい茨城財団、

（株）吉田石油、水戸京成ホテル

協力：全日本空輸（株）

後援：（株）茨城新聞社、水戸商工会議所

【カルテット ^{アット} AT 水戸】

2023年、当館の専属楽団として、水戸室内管弦楽団ならびにオタワ・ナショナル・アーツセンター管弦楽団のコンサートマスターを務める川崎洋介を中心とする、室内楽の名手4名で活動開始。弦楽四重奏の名曲と共に、まだ知られていない優れた作品を取り上げます。

7月13日（土）

カルテット ^{アット} AT 水戸 第2回演奏会

～室内楽のエキスパート4人による意欲的なプログラム～



左から 西野ゆか（ヴァイオリン）、柳瀬省太（ヴィオラ）、辻本 玲（チェロ）、川崎洋介（ヴァイオリン）

©田澤 純

昨年夏、第1回演奏会で鮮やかな熱演を繰り広げ、大喝采を浴びた当館の専属楽団「カルテット AT 水戸」。第2回演奏会は旧ソ連、日本、アメリカ、チェコの作曲家が生み出した作品を取り上げます。

出演：カルテット AT 水戸

川崎洋介（ヴァイオリン）、西野ゆか（ヴァイオリン）、柳瀬省太（ヴィオラ）、
辻本 玲（チェロ）

曲目：

ショスタコーヴィチ：弦楽四重奏曲 第7番 嬰ハ短調 作品108

藤倉 大：弦楽四重奏曲 第3番〈アクエリアス〉

ハイルストーク：弦楽四重奏曲 第2番

〈スウィング・ロー・スウィート・チャリオット〉による変奏曲

ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲 第12番 ハ長調 作品96〈アメリカ〉

【新ダヴィッド同盟】 New “Davidsbündler”

2010年、吉田秀和・初代水戸芸術館館長の命名により当館の専属楽団として結成されました。メンバーは、日本を代表するヴァイオリニストの一人、庄司紗矢香を中心に、庄司の呼びかけで集まった気心知れた音楽仲間たち。みな世界各地から水戸に集まり、密度の濃いリハーサルを徹底的に行って演奏会に臨みます。

11月30日（土）

新ダヴィッド同盟 第7回演奏会

～スティーヴン・イッサーリスを迎えて～



新ダヴィッド同盟 第5回演奏会より ©田澤 純

今回はチェロの世界的奏者で、庄司紗矢香をはじめメンバーからも深くリスペクトされている名手、スティーヴン・イッサーリスを初めてゲストに迎えます。

ゲスト：スティーヴン・イッサーリス

出演：庄司紗矢香（ヴァイオリン）、池田菊衛（ヴァイオリン）、
磯村和英（ヴィオラ）、石坂団十郎（チェロ）、小菅 優（ピアノ）

曲目：

ボッケリーニ：弦楽五重奏曲 ホ長調 G.275

ジョリヴェ：ノクターン（チェロとピアノのための）

アレンスキー：弦楽四重奏曲 第2番 イ短調 作品35

シューマン：ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品44

12月1日（日）

新ダヴィッド同盟 東京公演

会場：紀尾井ホール

出演者・曲目：水戸芸術館での第7回演奏会と同じ

※当館の主催により、室内楽専用の音響の良いホールとして知られる紀尾井ホールで東京公演を行います。これだけのメンバーが揃う室内楽の演奏会は、東京でもめったに聴くことができないため、大きな注目を集めることが予想されます。



スティーヴン・イッサーリス ©Tom Miller

2. 学芸員が独自の視点で企画するオリジナル企画

音楽部門学芸員が、社会的意義や地域の皆様のニーズをふまえながら独自の視点で企画・制作するオリジナル企画です。

8月31日(土)

ルイジ・ノーノの肖像

～前衛作曲家の闘争と夢の痕跡～



戦争を引き起こした前時代には戻りたくない
と、第二次大戦後に、新しい時代に相応しい
新しい音楽創造を目指した前衛作曲家の旗手
ルイジ・ノーノ(1924～1990)。その創作
の軌跡を、生誕100年の年に迎えます。

ルイジ・ノーノ ©Cameraphoto Venezia

出演：アルディッティ弦楽四重奏団、北村朋幹(ピアノ)、
木ノ脇道元(コントラバス・フルート)、西澤春代(コントラバス・クラリネット)
有馬純寿(エレクトロニクス)、片山杜秀(ナビゲーター)

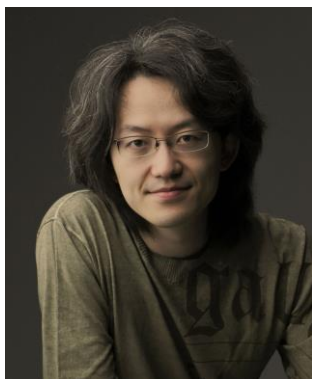
曲目：…苦悩に満ちながらも晴朗な波…(1976)
夢をみながら、“歩かねばならない”(1989)
ピエールに「青い沈黙、不穏」(1985) 他

10月13日(日)

鈴木優人(チェンバロ)

J.S.バッハをとりまく音楽のシリーズ(全4回)

～八面六臂の活躍を見せる鈴木優人が自らの原点＝バッハに立ち返ります～



ピアノ、チェンバロ、オルガンなど様々な鍵盤
楽器を自在に操り、近年は指揮者としても活
躍、さらに「題名のない音楽会」などテレビ番
組でも人気の高い鈴木優人が、バッハをテーマ
に新シリーズ企画を開始します。

©Marco Borggreve

第1回 「J.S. バッハとバロック音楽」 イタリア vs. フランス

曲目：J.S.バッハ：イタリア協奏曲 ヘ長調 BWV 971

クーラン：組曲 二短調 より

ラモー：組曲 ト長調 より

フレスコバルディ：トッカータ集より 他

12月15日(日)

水戸の街に響け！ 300人の《第九》 2024

会場：広場（雨天の場合、コンサートホール ATM）

～師走の空に、市民による合唱が響く～



一般公募の市民など約 300 名の大合唱団が、9 月から練習を重ね、シンボルタワーの下、水戸の街に壮大な歌声を響かせるという、全国的に見ても類例のない企画です。

12月21日(土)

クリスマス・プレゼント・コンサート 2024

企画・司会：池辺晋一郎

～毎年恒例！一年を締めくくる華やかなコンサート～



実力ある人気演奏家たちが集い、クリスマスの華やかな気分を盛り上げるガラ・コンサート。日本を代表する作曲家であり、水戸出身の池辺晋一郎の企画・司会でお贈りします。

3月20日(木・祝)

小菅 優「ソナタ・プロジェクト」 Vol.3

～人気と実力を兼ね備えたピアニスト小菅 優が挑むシリーズ企画～



© Marco Borggreve

曲目：スカルラッティ：ソナタ 短調 K.87 L.33

藤倉 大：委嘱新作

スクリャーピン：ソナタ 第9番 作品68〈黒ミサ〉

スクリャーピン：ソナタ 第10番 作品70

ベルク：ソナタ 作品1

リスト：ソナタ 短調

新ダヴィッド同盟のメンバーであり、我が国を代表するピアニストの一人でもある小菅 優が挑むシリーズ企画。Vol.3は「神秘、革新、憑依、そして祈り」をテーマに、スクリャーピン、リストなど、少々難解な作品を取り上げます。

ちょっとお昼にクラシック シリーズ

～昼下がりに約 1 時間、気軽にクラシック音楽をお楽しみいただける人気シリーズ～

週末や夜のコンサートになかなか足を運べない方にも、楽しいトークとともに気軽にクラシック音楽をお楽しみいただける人気シリーズ。

7月28日(日)

大西宇宙(バリトン)

～今、最も人気のバリトン歌手の1人が水戸芸術館初登場!～



©Marco Borggreve

ニューヨークの名門ジュリアード音楽院を卒業後、米国3大歌劇場の1つシカゴ・リリック歌劇場の専属歌手として活躍していた大西宇宙。2019年のセイジ・オザワ松本フェスティバルのオペラの主役に代役で抜擢され、日本のオペラ界に彗星のごとく現れました。それ以来、日本にも多くのファンを持つ大西が、水戸芸術館のステージで豊潤な美声を聴かせます。

1月24日(金)

中 秀仁(クラリネット)

～MCOに長く参加している中 秀仁の“音楽隊”が登場～



水戸市内の中学1年生をコンサートホールに招く「中学生のための音楽鑑賞会」と同じ内容で、ご家族で音楽の楽しさを共有できるコンサートです。今回は中 秀仁のクラリネットを中心に、ピアノ、アコーディオン、三味線というめずらしい組み合わせの“音楽隊”が登場します。

3月8日(土)

前橋汀子(ヴァイオリン) & 荘村清志(ギター)

～2人のレジェンドの贅沢すぎるお昼!～



©岡本隆史

©良知賀津也

わが国を代表する演奏家として第一線を走り続け、今やレジェンドと呼ばれるのに相応しい2人の演奏家、前橋汀子(ヴァイオリン)と荘村清志(ギター)によるデュオが、ちょっとお昼の公演に登場します。それは豪華な晚餐のメインディッシュを気軽なランチで楽しんでしまうような贅沢さです!

3. 国際舞台の最前線で活躍する名演奏家たちを招聘する企画

国際舞台の最前線で活躍する当代を代表する名演奏家たちを水戸に招聘します。プログラムは、地域の皆様のご要望やその演奏家の魅力が最大限に伝わるような曲目などをリクエストして、水戸芸術館ならではのコンサート内容をご提供します。

4月21日(日)

やのとあがつま(矢野顕子&上妻宏光)

～日本の民謡をオリジナルアレンジで演奏～



稀有なシンガーソングライター&ピアニスト・矢野顕子とボーダレスに活躍する津軽三味線の名手・上妻宏光が日本各地の民謡をお贈りします。

6月22日(土)

セバスチャン・ジャコー&吉野直子

～フルートの貴公子とハープの女王による夢のデュオ～



©Tomoko Hidaki

MCOメンバーのセバスチャン・ジャコーと、MCO や室内楽公演などで数々の名演奏を聴かせてきた吉野直子による“夢のデュオ”。ピゼー〈メヌエット〉など、フルートとハープによる名曲の数々をお届けします。

6月30日(日)

バンジャマン・アラール オルガン・リサイタル

～フランスの鍵盤楽器の名手を迎えた「オール・バッハ・プログラム」～



© Bernard Martinez

水戸芸術館で8年ぶりとなる「オール・バッハ・プログラム」でのオルガン・リサイタルを、フランスの鍵盤楽器の名手、バンジャマン・アラールを迎えてお贈りします。

12月17日（火）

樫本大進（ヴァイオリン）＆ラファウ・ブレハッチ（ピアノ）

中心市街地活性化事業

会場：水戸市民会館グロービスホール（大ホール）

～ベルリン・フィルのコンマスとショパン・コンクール優勝者の豪華デュオ～



© Marco Borggreve

共催：水戸市民会館

オーケストラのヴァイオリン奏者としては、世界最高峰の地位であるベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサート・マスターを務める樫本大進。そして、ピアノのコンクールとしては最も権威があるショパン国際ピアノ・コンクールの覇者ラファウ・ブレハッチ。時代を上り詰めた2人の豪華デュオを水戸市民会館でお楽しみいただきます。

2月1日（土）

大西順子（ジャズ・ピアノ）

～3度目の水戸芸術館のステージは、究極の“ピアノ・ソロ”！～



日本のジャズシーンを長年第一線でリードしているジャズピアニスト・大西順子。2022年のカルテット、2024年のセクステット公演での大反響を経て、今回は常に進化し続ける大西順子の「ソロ」をじっくりお届けします。

2月24日（月・祝）

サイトウ・キネン・オーケストラ プラス・アンサンブル

中心市街地活性化事業

会場：水戸市民会館グロービスホール（大ホール）

～世界の名手たちによるスーパー・プラスが
水戸市民会館の大ホールに響き渡る～



撮影：田澤 純

共催：水戸市民会館

ガボール・タルコヴィ（トランペット、元ベルリン・フィル首席）、ヨハン・シュトレッカー（バス・トロンボーン、ウィーン・フィル）など、サイトウ・キネン・オーケストラの強力なプラス・セクションの名手たちが登場。水戸市民会館の大ホールに華麗なプラス・サウンドが響き渡ります。

4. 茨城の演奏家が出演する企画

～地域の音楽文化のいっそうの発展を目指して～

7月6日（土）

茨城の名手・名歌手たち 第32回出演者オーディション

～茨城から羽ばたく才能を発掘～

茨城県にゆかりのある優れた演奏家を発掘・紹介する演奏会のオーディション。1990年の開館から継続して行っているこの企画からは、全国的に活躍する演奏家も数多く輩出しており、演奏家の登竜門としても注目されています。

審査部門：管楽器、打楽器、声楽（以上ソロ）、器楽アンサンブル（2～5名まで）

11月24日（日）

茨城の名手・名歌手たち 第32回演奏会

司会：宮本文昭

～茨城から羽ばたく才能を広く紹介～



7月のオーディションに合格した演奏家たちが出演するガラ・コンサート。司会はMCO元オーボエ奏者の宮本文昭（オーディション審査委員）が務めます。

日程調整中

常陽藝文センター presents

茨城の名手・名歌手たち スペシャルコンサート

～茨城ゆかりの演奏家によるアットホームなコンサート～



常陽藝文ホールで開催してきた「茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート」が、舞台を水戸芸術館に移してリニューアル！「茨城の名手・名歌手たち」の合格者を広く紹介します。

茨城の演奏家による演奏会企画

茨城県内を拠点に活動する演奏家の方々が、企画・出演する演奏会です。

今年度は、9企画を開催します。

- 茨城笛の会 6月2日(日)
 - 茨城県民オペラ協会 7月14日(日)
 - NHK水戸児童合唱団 8月10日(土)
 - 宮田悠貴(ハープ) 9月21日(土)
 - Corodia(女声合唱) 11月4日(月・祝)
 - 川又千世(ソプラノ) 11月10日(日)
 - 小林日和(ヴァイオリン) 2月9日(日)
 - 兼氏規雄(クラリネット) 2月11日(火・祝)
 - Duo la Bilancia(ピアノ・デュオ) 3月9日(日)
-

広報誌の編集・発行

水戸芸術館音楽紙 vivo(ヴィーヴォ)



演奏会情報や出演者のインタビュー、制作秘話など、学芸員ならではの視点で掲載する広報誌の編集・発行を通年で行っています。

ラジオ番組

毎週日曜 7:30~8:00 Lucky FM 茨城放送

水戸芸術館 presents みんなのクラシック(ラジオ番組)



音楽部門学芸員が様々なテーマでおすすめの曲を紹介し、クラシック音楽の魅力をお届けします。

5. 教育普及事業

～魅力ある音楽体験をすべての世代へ～

子どもたちの発達段階に応じた音楽鑑賞プログラム、子どもたちや市民の音楽活動を支援する教育プログラム、クラシック音楽初心者の方でもお楽しみいただける入門的なプログラムなど、すべての世代に向けて、多彩なプログラムを用意しています。

●水戸室内管弦楽団 教育普及事業

10月25日（金）

水戸室内管弦楽団 子どものための音楽会

会場：リリーアリーナ MITO

～オーケストラの生演奏を約 2,500 名の子供たちに～



子どもたちにオーケストラの生演奏の感動を届けたいと願い、MCO が水戸市内・近郊の小学 5 年生約 2,500 名を対象に、トークと楽器紹介を交えて音楽会を行います。19 回目を迎える今回は、第 114 回定期演奏会の開催にあわせて行います。

主催：（公財）水戸市芸術振興財団、水戸市教育委員会

共催：（公財）げんでんふれあい茨城財団

1月19日（日）

水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート

会場：鹿嶋勤労文化会館

～茨城県で活動する演奏団体の演奏を MCO メンバーが指導～



MCO の管楽器奏者たちが、県内の吹奏楽団やオーケストラを指導する公開レッスンです。年ごとに県内の各地域を巡回して開催しており、今年度は鹿行地域を対象に、鹿嶋市で開催します。

共催：（公財）水戸市芸術振興財団、茨城県

2月16日(日)
MCO セミナー・ウインズ 2025
～MCO メンバーとセミナー受講団体の合同コンサート～



共催：茨城県

公募で選ばれた県内の管楽器アンサンブル（高校生～一般。三～八重奏）が、MCOの管楽器奏者たちのレッスンを受講し、その成果を披露していただくコンサートです。講師と受講者全員での合奏も予定しています。

日程調整中

水戸室内管弦楽団メンバーによる小中学生吹奏楽セミナー
～世界トップレベルの音楽家が地域の子どもたちを直接指導～



共催：水戸市教育委員会

水戸市の小中学校吹奏楽部や金管バンド部を対象にコンサートホールATMで、MCOメンバーが演奏を指導します。子どもたちの演奏技術の向上、およびMCOと地域との交流を目的に実施している教育プログラムです。

●子どもたちの発達段階に応じた音楽鑑賞プログラム

8月12日（月・振）

0歳からのわくわくオルガン・コンサート なつ★オルガン

～親子で楽しくコンサートホールデビューしませんか～



赤ちゃんから参加できる、小型オルガンの音楽会。子どもたちに大人気のオルガニスト・浅井美紀、そして今回は多彩なジャンルで活躍をしているソプラノ歌手、大田茉莉を迎えて、オルガンと歌による美しいコラボレーションをお贈りします。

通年（月1～2回）

幼児のためのパイプオルガン見学会

～楽器の王様・パイプオルガンを、楽しく体験～



市内の幼稚園、保育所（園）の幼児を対象に、パイプオルガンを気軽に楽しんでいただく企画。休館日に行っており、年間約1,400名、これまで2万人以上の子供たちが参加している人気プログラムです。

1月22日（水）、23日（木）、24日（金）

中学生のための音楽鑑賞会 2025

～市内の中学生約2,000名が一流の演奏を楽しく鑑賞～



MCOのメンバーなどによる演奏とトークを通してクラシック音楽に親んでもらう音楽鑑賞会。1992年から開催しており、毎年水戸市内の中学1年生約2,000名が参加しています。

共催：水戸市教育委員会

●市民の音楽活動を支援する教育プログラム

11月16日（土）

中学校合唱の祭典

～市内中学校の合唱コンクールの成果を披露～

市内の各中学校の合唱コンクールで最優秀に選ばれたクラスや団体が一堂に会し、その成果を披露します。コンサートは各中学校から選ばれたプロジェクト委員の生徒たちが運営します。より沢山の子どもたちに、当館のステージで演奏する楽しさを知ってもらいたいとの思いから、開催しています。

共催：水戸市教育委員会

12月7日（土）

市内小中学校 芸術館コンサート 2024

～水戸市内の子どもたちによるステージ～

市内の小・中学校の吹奏楽、器楽合奏、合唱などの各団体による演奏会で、日頃の練習成果を発表する機会です。MCOの管楽器奏者などが演奏会に立ち会い、講評を行います。

下半期（9月～3月）

市民のためのオルガン講座

～国産最大級のパイプオルガンを弾いてみる～



多彩な音色を持つ、国産最大級のパイプオルガンを弾いて楽しむ講座。「実技レッスン（初級・中級）」と「一回体験」、そして2022年に新設した「演奏家育成コース」があります。講師は、全国各地で活躍するオルガニストで、元当館音楽部門主任学芸員の室住素子が務めます。

2月

合唱セミナー 2025

～合唱の楽しみを広げよう～



地元の合唱愛好家の方々を対象としたセミナーです。毎回、日本を代表する合唱指揮者や作曲家を講師に迎え、課題曲を半日かけて練習します。

講師：未定

共催：茨城県合唱連盟、茨城県高等学校文化連盟、茨城県高等学校教育研究会音楽部

●その他の教育普及事業

通年（月2回程度）

パイプオルガン・プロムナード・コンサート

～国産最大級のパイプオルガンを無料で楽しめるコンサート～



エントランスホールに設置された国産最大級（パイプ総数 3,283 本）のパイプオルガンの音色を気軽に楽しみいただける、週末お昼の無料コンサート。

パイプオルガン以外の楽器による「プロムナード・コンサート EXTRA（エクストラ）」も開催します。

8月

ぴ～すプロジェクト

平和作文朗読発表会とパイプオルガン・プロムナード・コンサート

～戦争と水戸空襲の記憶を若い世代に～



「戦争」と「水戸空襲」の記憶を若い世代に伝えるため、水戸市平和記念館、水戸市立博物館、水戸芸術館の3館が連携して開催するプロジェクト。当館では平和作文コンクールで優秀な成績を収めた小中学生の朗読発表とパイプオルガンの演奏をお聴きいただきます。

共催：水戸市



劇場という場所で、地域のみなさんを元気に、
そして豊かにしていきたい！
演劇の持っている“力”を活かして、
“公共”劇場の役割を果たしていきます

1. 劇場の特性を活かしたオリジナル作品づくり「ACM 劇場プロデュース」
2. 誰もが楽しめる、そして伝えていきたい「伝統芸能のススメ」
3. 最先端で良質な演劇作品を紹介する「招聘企画」
4. 舞台芸術の才能を育てる「人材養成プロジェクト」
5. 楽しみながら学んでいく「アート教育プログラム」(教育普及事業)

1. ACM劇場プロデュース

水戸芸術館ACM劇場は、企画によって客席数を最適化し、臨場感溢れる演劇環境で、地域の皆様に興味を持っていただけるオリジナル作品を上演します。

近年は、特に次世代の子どもたちのための活動に力を入れており、地域の実情とニーズに沿ったオリジナル作品を企画しています。まさに地域と一体になって全力で取り組んでおります。

5月2日（木）、3日（金・祝）、4日（土・祝）、5日（日・祝）、6日（月・振）
ゆうくんとマットさんの『かいじんハテナ?』

～ゴールデンウィークに親子で楽しめる舞台シリーズ最新作～



2022年の公演より ©刑部アツシ

原作：舟崎克彦『かいじんハテナ?』（小学館）

脚本・構成・演出：Ukm3

人形デザイン・製作・操作指導：沢 則行

出演：ゆうくんとマットさん（小林祐介・大内真智）、堀口理恵

子どもたちに大人気の読み聞かせユニット「ゆうくんとマットさん」の舞台シリーズ。今年は、チェコのプラハを拠点に世界で活躍する人形劇師である沢則行とのコラボレーションにより、シリーズ3年ぶりの新作をお届けします。

ゆうくんとマットさんの「おはなしキャリーボックス」（月1回開催・入場無料）

～ゆうくんとマットさんと一緒に、素敵な絵本の世界を楽しもう～



絵本の読み聞かせを毎月1回、水戸芸術館館内にて開催します。ご家族で楽しく過ごせる時間です。

ゆうくんとマットさんとは

東日本大震災をきっかけに、水戸芸術館専属劇団 ACM メンバーの小林祐介と大内真智が結成した絵本の読み聞かせユニット。様々な場所に出張して読み聞かせを行う「おはなしキャリーボックス」のほか、ACM 劇場にて舞台公演を行っています。

6月1日(土)、2日(日)
深作組+水戸芸術館 プロデュース公演
『ノラ —あるいは、人形の家—』

～イブセンの傑作社会劇『人形の家』を、ACM 劇場の特設能舞台にて上演！～

音楽劇『夜のピクニック』など、水戸芸術館プロデュース公演の演出を担った深作健太が、プロデュース・ユニット<深作組>の作品を、初めて水戸芸術館の舞台上で上演。主演ノラ役には、アーティストとしても快進撃を続ける声優の夏川椎菜が挑みます。

本作品は、マリー・フォン・ボルヒがドイツ語に翻訳したイブセンの戯曲『人形の家』を、2023年に第16回小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞した大川珠季が日本語に翻訳。設定を現代に翻案した新作として舞台化します。演劇やオペラ、映像等で活躍する深作健太が、現代社会が抱える問題をどう抉り出し、鋭い視点からいかに演出するのが注目されます。



原作：ヘンリック・イブセン

ドイツ語訳：マリー・フォン・ボルヒ

翻訳・ドラマトゥルク：大川珠季

演出：深作健太

音楽・演奏：西川裕一

出演：夏川椎菜、川久保拓司、高山のえみ、塩谷 亮(劇団 ACM)、荻沼栄音、寺戸 花、
宮地大介

11月16日(土)、17日(日)、23日(土・祝)、24日(日)
ACMファミリーシアター
『リトルセブンの冒険 ～白雪姫去りし後の“こびとたち”の物語～』

～子どもだけでなく大人の心にも響く舞台を！

家族で一緒に楽しめるACMファミリーシアター・シリーズ～



『リトルセブンの冒険』2023年11月の公演より ©刑部アツシ

絵本や児童文学を原作に、家族で楽しめる作品を上演してきたファミリーシアター・シリーズ。昨年は少し趣をかえて、舞台エンターテインメント界で大人気の劇団☆新感線が1999年にファミリー向けに上演した作品を人気演出家：中屋敷法仁なかやしきのりひとの脚色・演出により上演しました。ダンスと笑いが満載で、ハラハラドキドキ感あふれる展開の冒険活劇は、子どもたちに大人気となり、再演が決定しました。

白雪姫が去った後、取り残された“七人のこびとたち”が、新たな冒険に巻き込まれながらも強く成長していく、ちょっぴり間抜けでほんのり切ない物語です。

地域の子どもたちに演劇楽しさを届けます。ぜひご家族でお楽しみください。

作：中島かずき

脚色・演出：中屋敷法仁

出演：七味まゆ味、加藤ひろたか、齋藤明里、蓮井佑麻、佐々木穂高、田中 廉
よし乃、川崎賢一/大内真智、小林祐介、塩谷 亮（以上、劇団 ACM）

※本公演は水戸市立小学校の4年生をACM劇場に招待して生の演劇を見ていただく「小学生のための演劇鑑賞会」として、上記日程以外にも公演を行います。（33ページに掲載）

1月25日（土）、26日（日）、2月 1日（土）、2日（日）
水戸芸術館 プロデュース公演
『シェイクスピアの旅芸人（仮）』

～シェイクスピアの〈劇中劇〉を演じる旅芸人一座の物語～



池岡亮介



塩谷 亮



大内真智



小林祐介



松田洋治

「世界はすべてお芝居だ。

男と女、とりどりに、すべて役者にすぎぬのだ」（『お気に召すまま』阿部知二訳）

人材養成の新規事業「リーディングプロジェクト」の1回目を昨年10月に開催し、そこから選抜した若手俳優陣に、専属劇団ACMのメンバーが加わり、旅芸人一座の抱腹絶倒の物語を幻想的に描きます。『お気に召すまま』の台詞に導かれて集まる一座の団長には、数々のシェイクスピア劇に出演してきた松田洋治をキャスティング。新世代の舞台俳優、池岡亮介の出演も決まり、キャストが揃いました。構成・演出を担当する大澤 遊、さらには大活躍中の若き翻訳家、小田島創志も本公演に参加します。有名な劇中劇（『ハムレット』『夏の夜の夢』『テンペスト』など）の名場面を新翻訳で構成、シェイクスピア劇の新たな魅力を伝えていきます。

原作：ウィリアム・シェイクスピア

翻訳：小田島創志

構成・演出：大澤 遊

出演：池岡亮介、伊海実紗、伊藤ナツキ、今井公平、西奥瑠菜／

塩谷 亮、大内真智、小林祐介（以上、劇団ACM）／松田洋治

2. 伝統芸能のススメ

伝統芸能をたっぷり堪能できる人気企画。定期開催となっている狂言公演の他に、人気のある落語家の独演会など一年間を通して楽しめるプログラムとなっております。

4月20日（土）

伝統芸能のススメ [狂言]

野村万作抄 30『文荷』『小傘』

～人間国宝・野村万作と多方面で大活躍する野村萬斎、その長男裕基による親子3代の競演～



笑いの伝統芸能、狂言の魅力が詰まった演目をご堪能ください。川づくしの小舞「名取川」、能「恋重荷」のパロディ「文荷」、博打で食い詰めた主従が僧に成りすます「小傘」をお贈りします。

出演：野村万作、野村萬斎、野村裕基 他

5月11日（土）

伝統芸能のススメ [落語]

立川志の輔独演会

～当代随一の人気と実力を誇る立川志の輔～



当代随一の人気と実力を誇る落語家・立川志の輔。落語に新しい息を吹き込み、進化し続けるその話芸で、年代を問わず多くの観客を魅了しています。志の輔ワールドを存分に堪能できる独演会です。

6月22日（土）

伝統芸能のススメ [落語]

桂宮治独演会

～「笑点」大喜利レギュラー出演など大活躍中！話題満載の噺家です～



ご存じ人気テレビ番組「笑点」大喜利などで大活躍中です。今年の1月にはファミリー寄席でも登場、「落語教室」では、子どもたちにも落語の楽しさを伝えてくれました。桂宮治自身による演出されたシアトリカルな独演会をお楽しみいただきます。

7月20日(土)
伝統芸能のススメ [落語]
柳家三三^{さんざ}独演会

～ますます磨きがかかった古典落語の名人芸～



端正な語り口で、観客をあっという間に江戸落語の世界に誘う巧みな話芸。この1月の独演会での「文七元結」は、まさに記憶に残る名演でした。立川談春との圓朝シリーズでも新境地を切り開きつつある古典落語の名手が、今年は“夏”にACM劇場に登場します。

10月12日(土)
伝統芸能のススメ [落語]
柳家花緑独演会

～古典から新作まで、今年もあの歯切れのよい語り口をお楽しみに～



水戸芸術館のラインナップにはなくてはならない演者の一人で、11回目の独演会になります。幅広い噺で観客を魅了する落語界のプリンスが今年もやってきます。

1月13日(月・祝)
伝統芸能のススメ [狂言]
萬狂言水戸公演 + 狂言ワークショップ

～笑いの伝統芸能“狂言”の魅力を存分に堪能～



野村萬、万蔵の親子競演を今年もお贈りします。和泉流狂言の至芸をご堪能ください。

そして“狂言ワークショップ”を同日に開催、より幅広く狂言の魅力を伝えていきます。

出演：野村萬、野村万蔵、野村万之丞 他

日程調整中ですが、次の企画も上演予定です

伝統芸能のススメ [落語]

春風亭昇太独演会

～今年も昇太ワールドをお楽しみください～



登場ただけで会場が明るくなる、今やテレビ「笑点」の、そして落語界の“顔”ともいうべき春風亭昇太。今年も抱腹絶倒の昇太ワールドをお楽しみください。

伝統芸能のススメ [落語]

柳家さん喬独演会

～古典落語の正統派による円熟の話芸～



滑稽話から涙を誘う人情噺まで、きめ細やかな演出で観客の心を魅了する高座は、まさに江戸落語の正統派。ゲストを招いてのスペシャルな独演会を企画中です。

3. 招聘企画

日本各地の公共劇場やプロデュース会社が製作する良質でオリジナリティの高い作品を地域の皆さまに紹介する企画シリーズ。今の時代だからこそ見逃せない企画もあれば、誰もがいつでも楽しめるような作品まで幅広く作品を紹介するよう心がけています。

演劇により時代の空気も体験できる粒揃いのラインナップです。

11月4日（月・振）

白石加代子「百物語」シリーズ アンコール公演第5弾

阿刀田 高『干魚と漏電』

高橋克彦『遠い記憶』

～涙も笑いも、苦味も洒落っ気も 楽しみすべてが詰まったエンターテインメント～



明治から現代の日本の作家を中心に、「恐怖」というキーワードで選ばれた作品を白石加代子が朗読するシリーズの傑作アンコール上演。素っ頓狂なおばさんを演じて笑わせつつ最後の一言で凍りつく『干魚と漏電』。主人公が一步一步と恐怖に近づいていくドキドキ感が堪らない『遠い記憶』の2本立てです。

構成・演出：鴨下信一

出演：白石加代子

12月7日（土）、8日（日）

『ダンカン・マクミラン作品（日本初演）』

～ダンカン・マクミラン×杉原邦生 話題のタッグが水戸に登場！～



ダンカン・マクミラン 杉原邦生 ©細野晋司

昨年9月上演し大好評だった『エブリ・ブリリアント・シング』の作家マクミラン。同じく10月に上演した木ノ下歌舞伎『勸進帳』にて演出を担当した杉原邦生との組み合わせによる日本初演の作品を上演します。マクミラン独特の濃密な会話劇で展開していくスリリングな人間ドラマと、杉原邦生の演出で斬新に描く舞台にご期待ください。

作：ダンカン・マクミラン

翻訳：高田曜子

演出：杉原邦生

2月15日(土)、16日(日)
劇団た組『ドードーが落下する』

～演劇界で大注目の若き鬼才加藤拓也による劇団た組公演～



初演より(2022年) ©岡本尚文

脚本・演出：加藤拓也

第67回岸田國士戯曲賞受賞作『ドードーが落下する』の再演が決定。2022年の読売演劇大賞(演出賞)や鶴屋南北戯曲賞にもノミネートされるなど演劇界で大活躍中の加藤拓也による待望の劇団公演。“超”現代口語で描かれる青春失踪劇にて水戸の演劇ファンに若き才能をいち早くご紹介します。

日程調整中
『ラヴ・レターズ』

～かけがえのないあなたへ贈る、リーディングドラマ～



藤田俊太郎 ©KEI OGATA

1990年パルコ劇場での日本初演以来、年齢も個性も異なる様々なカップル(延べ518組)により読み継がれている朗読劇の金字塔。90年代には2回当劇場でも公演しています。朗読スタイルの公演が盛んになった今こそお届けしたい作品です。

作：A.R.ガーニー
翻訳：青井陽治
演出：藤田俊太郎

4. 人材養成プロジェクト

地域の実演家たちを紹介し応援してきた16回目を迎える“未来サポートプロジェクト”に加えて、昨年度より新しいプロジェクトも立ち上げました。舞台芸術の若き才能を紹介していくカテゴリーに位置付けて取り組んでいきます。舞台作品の創造および発表の機会を提供し、その人材の育成と輩出に貢献していきます。

9月7日（土）

未来サポートプロジェクト vol.16 <伝統芸能スペシャル“講談”>

神田真紅改め“三代目松林伯知”^{しょうりんはくち} 真打昇進襲名披露公演

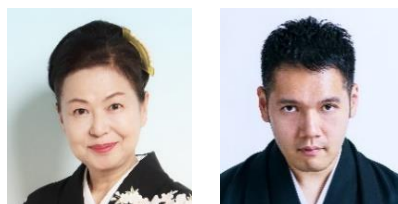
～水戸市三の丸出身の講談師の真打昇進襲名披露公演～



©刑部アツシ

出演：三代目松林伯知^{しょうりんはくち}

お祝いゲスト：神田 紅、神田伯山



茨城に縁のあるアーティストを紹介してきた本プロジェクトでは、水戸市三の丸出身の講談師・神田真紅を2017年より紹介し、応援を続けてきました。この度、真打昇進と襲名披露のお祝い公演を開催します。お祝いゲストとして師匠の神田紅、そして神田伯山が出演します。

12月1日（日）

リーディングプロジェクト

“ケストナーを読む”『飛ぶ教室』

～茨城の学生、そして観客を巻き込んでのリーディング公演～



エーリッヒ・ケストナー 桐山知也

原作：エーリッヒ・ケストナー

演出：桐山知也

演出家・桐山知也を中心としたプロジェクトを新たにスタートします。ドイツを代表する小説家エーリッヒ・ケストナーの作品群の中から「飛ぶ教室」を取り上げ、四方を客席が囲む舞台設営で観客が参加して一緒に公演をつくりあげるスタイルを試みます。WSにより茨城の高校演劇部との交流も目指します。

5. 教育普及事業

～楽しみながら学んでいく「アート教育プログラム」～

ACM劇場は演劇を中心とした舞台芸術を鑑賞する場所としてだけではなく、地域のさまざまな年代の市民の“学びの場”としての役割も長年務めてきました。参加する方の可能性を伸ばしていきながら、楽しんで学んでいくという人気の学習・体験レッスンです。一日完結から数日間の短期スタイル、さらには年間を通して学んでいき、発表公演を行う長期スタイルまで、さまざまな教育プログラムをご用意しています。

朗読スタジオ

5月～7月“基礎コース”（高校生以上）

9月～2025年2月“発表公演コース”（高校生以上）2月11日（火・祝）発表公演

講師：壤 晴彦（俳優、演出家、演劇倶楽部『座』主宰）、相澤まどか 他

～美しい日本語をみつめなおし、声に出して、共に学ぶ～



2024年2月公演より ©刑部アツシ

俳優、声優、演出家として国内外で活躍する壤晴彦を講師に、朗読を通して日本語の美しさを再発見することを目的としたスクールは、今年で12年目を迎えました。発声の基礎から学び、2月に発表公演を行います。今年度のテーマは“日本の名文を語る PART2”。また夏休みには短期の子どもワークショップも計画中です。

水戸子どもミュージカルスクール

5月～2025年3月

3月22日（土）、23日（日）発表公演

講師：高城信江、大内真智（劇団 ACM） 他

～学年、学校を越えた仲間たちとともに歌って踊って演じてミュージカルを学ぼう～



2024年3月公演より

小学4年生から中学3年生がミュージカルを学ぶ人気のスクール。今年度で12回目となります。5月開校、3月に発表公演と通年のレッスンにてミュージカルに取り組みます。仲間と一緒に作品をつくりながら子どもたちが、自分自身を発見していきます。校長は高橋市長です。

11月14日(木)～21日(木)

小学生のための演劇鑑賞会

『リトルセブンの冒険 ～白雪姫去りし後の“こびとたち”の物語～』

～水戸市立小学校の4年生全員がACM劇場で観劇～



2023年11月の公演より ©刑部アツシ
共催：水戸市教育委員会

水戸市立小学校の4年生をACM劇場に招待して生の演劇を体験してもらう企画。単なる芸術鑑賞ではなく、劇場マナーなども学び社会性を身に付ける場を目指して実施。市立以外の小学校にも体験してもらい、確実に演劇鑑賞のすそ野を広げています。

●地域交流プログラム

4月12日(金)～14日(日) ※下半期にも開催

体験型ワークショップ「伝わる声の作り方」

～発声の基本から丁寧に指導 日常生活にも役立つ声の講座～



楽しみながら声を磨くワークショップ、毎回満員御礼の人気企画です。専属劇団ACMの劇団員による、俳優のセリフ術や訓練を活用して、日常生活にも役立つ豊かな言葉の表現を体験していきます。楽しみながら学ぶ講座です。

講師：塩谷 亮 (劇団 ACM)

7月27日(土)、28日(日)

番外編「朗読を通して“戦争”を考えるワークショップ」



8月2日の水戸空襲の日や終戦記念日を前に、親子で“戦争”とはどういうものか考える、「伝わる声の作り方」番外編。実際に水戸空襲を体験した方々の記録「水戸空襲戦災誌」を題材にし、声に出して戦争の記録を朗読することで、戦争についてより深く考え、朗読体験もできるワークショップです。

「プレイルーム」(8月)

～小学校低学年を対象にした創造力を育てる遊び場～



子どもワークショップ「プレイルーム」の3年目。前は“ビバ！がいこつ祭り”と題して、みんなでメキシコのお祭りを再現しました。今年も子どもたちの“あそびゴコロ”を芽吹かせます。

進行役：大内真智（劇団 ACM）

「演出家・クリエイター等による交流ワークショップ」(年数回)

～若手クリエイターと地域の人たちとの出会いの場～

公演事業や人材養成事業にて水戸に滞在する若手クリエイターたちと表現することに興味を持つ市民との出会いの場をつくりだします。まさに地域の交流ワークショップとして楽しんでいただきます。



現代美術センターは、時代の状況をふまえながら、多様な価値観と個性、視点を大切に、想像力あふれるアーティストらの実践を通して、幅広い層の人々が〈みる〉、〈つくる〉そして〈対話する〉ことを楽しめる機会を、地域の人々との連携によってつくっていきます。

1. 展覧会事業

1-1. いま注目のアーティストによる個展

1-2. 若手作家を新作中心で紹介する個展シリーズ「クリテリオム」

2. 地域連携プロジェクト

地域の人々とともに、〈つながり〉をつくり〈地域〉を見つめ直す

3. 教育プログラム

さまざまな年齢層とコミュニティに向けて、現代美術の楽しみを伝える

4. 椿 昇+室井 尚《飛蝗（プロジェクト・インセクト・ワールド）》修復・公開事業

1. 展覧会事業

1. いま注目のアーティストによる個展

美術部門の事業の核となるのが、現代美術の多様な表現を引き立てる磯崎 新設計の展示空間で展開する企画展です。当代を代表するアーティストの個展から、近年の目覚ましい活動が注目されるアーティストによる初の大型個展まで、選りすぐりのアーティストによる作品を紹介します。

4月1日（月）～5月6日（月・振）

須藤玲子：NUNOの布づくり

会場：水戸芸術館現代美術ギャラリー、広場

～布づくりへの新たな視点と革新。茨城県出身のテキスタイルデザイナー須藤玲子による個展～

茨城県石岡市出身のテキスタイルデザイナー須藤玲子と、須藤が率いるテキスタイルデザイン・スタジオNUNOの活動を紹介する展覧会です。日本各地の職人・工場との協働作業や、素材の可能性を広げる須藤の多岐に渡る取り組みについて、音と映像を交えたインスタレーションで観覧します。また、当館現代美術ギャラリーや広場の空間を活かし、近年須藤が精力的に取り組む大型インスタレーションも展示しています。



須藤玲子×アドリアン・ガルデル《続・こいのぼりなう！》

撮影：林 雅之

作家略歴：

1953年茨城県石岡市生まれ。株式会社布代表。東京造形大学名誉教授。

日本の伝統的な染織技術から現代の最先端技術を駆使し、新しいテキスタイルづくりをおこなう。国立新美術館、岐阜県美術館、茨城県近代美術館ほか国内の展示多数。作品はニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館、ボストン美術館、ロサンゼルスカウンティ美術館、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、東京国立近代美術館など、世界の名だたるミュージアムに収蔵されている。2022年第11回円空大賞受賞。

2024年2月17日から5月6日まで企画展「須藤玲子：NUNOの布づくり」を当館現代美術ギャラリーにて開催。2024年2月、芸術選奨（美術部門）文部科学大臣賞受賞。

企画：高橋瑞木（CHAT 館長兼チーフキュレーター）

企画担当：後藤桜子（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

7月27日(土)～10月6日(日)

山下麻衣+小林直人 他者に対して、また他者と共に

会場：水戸芸術館現代美術ギャラリー、広場

～動植物や自然を含めた他者との関係構築を試みてきたアート・ユニットによる個展～

山下麻衣+小林直人は、映像インスタレーションを中心に国内外で活躍するアート・ユニットです。動植物や自然を含めた「他者」との関係構築を試みてきた山下+小林の作品では、些細な日常が価値を持ったり、奇跡的な出来事へと転換したりといった場面に少なからず遭遇します。それは、鑑賞者の価値観を揺るがし、ときに世界の見方を変動させる力を持っています。

本展では、山下+小林による多彩な実践を、最初期の作品や国内未発表作を含めて網羅的に紹介し、その全貌を紐解きます。また新作として、屋外広場に巨大な参加型作品を展開させます。災害やパンデミックを経て人と自然との不安定な関係が可視化され、また世界的な紛争の続く現在において、本展を通して「他者」との関係性を改めて考え、個々の存在のあり方を問う機会を創出します。



《Candy》2005年、作家蔵



《人か花に対して、また花と共に行う営み》(新作)のためのイメージスケッチ



《How to make a mountain sculpture - Japanese Mountains (浅間山)》2013年



作家略歴：

山下麻衣(やました・まい/1976年、千葉県生まれ)、小林直人(こばやし・なおと/1974年、千葉県生まれ)によるユニット。2001年から公式に活動を開始する。東京藝術大学を修了後2012年まで海外で活動し、現在は千葉県を拠点とする。クストフェライン・ゲッティンゲン(ドイツ、2011年)、小山市車屋美術館(栃木、2015年)、黒部市美術館(富山、2021年)、千葉県立美術館(千葉、2023年)での美術館個展のほか、瀬戸内国際芸術祭2019などの国際芸術祭にも数多く参加している。

企画：畑井 恵(水戸芸術館現代美術センター学芸員)

11月2日（土）～ 1月26日（日）

田村友一郎 展

～メディアを横断し、土地固有の多層的な物語をつくる作家による個展～

田村友一郎は、これまでに既存のイメージやオブジェクトを起点にした作品を手掛けてきました。写真、映像、インスタレーションからパフォーマンスや舞台まで、多彩なメディアを横断し、ある土地の持つ、固有の歴史的テーマから身近な大衆的テーマまでにおよぶ幅広い着想源をもとに、現実と虚構を交差させた多層的な物語を構築することで、既存の歴史や記憶へ新たな解釈を付与し、それらを現代への問題へと接続する点が彼の作品の特徴となっています。

本展においても、水戸の近現代史を起点にした新作を制作、発表。田村の過去の代表作とともに展示することで、日本近代史における水戸について新たな視点を付与することを試みます。



《含密 / The Story of C》ヨコハマトリエンナーレ 2020 年、
横浜美術館 映像 パフォーマンス 2020 年



《テイストレス》2021 年
京都芸術劇場・春秋座、劇場作品

作家略歴：

田村友一郎（たむらゆういちろう）1977 年富山県生まれ、京都府在住。日本大学芸術学部写真学科卒業。東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程修了。ベルリン芸術大学空間実験研究所在籍（2013-14）。既存のイメージやオブジェクトを起点にしたインスタレーションやパフォーマンスを手掛ける。従来の美術の領域にとらわれない独自の省察の形式を用いて、特権的な現代美術の観客へのメッセージを意図するだけでなく、観客とのあいだに特異なコミュニケーションをもたらす。土地固有の歴史的テーマから身近な大衆的テーマまで着想源は幅広く、現実と虚構を交差させつつ多層的な物語を構築する。近年の展覧会に、個展「Milky Mountain / 裏返りの山」（Govett-Brewster Art Gallery、ニュージーランド、2019）、「叫び声 / Hell Scream」（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都、2018）、「G」（Yuka Tsuruno Gallery、東京、2018）、グループ展「アジア・アート・ビエンナーレ」（国立台湾美術館、台中、2019）、「話しているのは誰？ 現代美術に潜む文学」（国立新美術館、東京、2019）、「美術館の七燈」（広島市現代美術館、広島、2019）、「わたしはどこにいる？ 道標をめぐるアートとデザイン」（富山県美術館、富山、2019）、「六本木クロッシング 2019 展：つないでみる」（森美術館、東京、2019）、釜山ビエンナーレ（釜山現代美術館、韓国、2018）、日産アートアワード 2017（BankART Studio NYK、横浜、2017）、「2 or 3 Tigers」（世界文化の家、ベルリン、2017）、「BODY/PLAY/POLITICS」（横浜美術館、横浜、2016）など。

企画：井関 悠（水戸芸術館現代美術センター主任学芸員）

2月15日(土)～3月31日(月) ※会期:5月6日(火・振)まで
近藤亜樹 展

～躍動感あふれる、色彩豊かな画風で知られる画家の個展～

躍動感あふれるダイナミックな筆使いと力強い色彩の絵画で知られる画家・近藤亜樹による個展。絵画の形式にとらわれず、「描くこと」の可能性を探究してきた近藤は、2011年サンフランシスコ・アジア美術館でのグループ展に10メートルを超える大作を招聘出品するなど、大学院在学中より高い評価を獲得してきました。「絵は私が今ここに生きていることを認識させる。私にとって絵は光のかたまりだ」近藤が画家としてデビューして15年あまり、同じ時代を生き抜くなかで多くの人が不安や葛藤、喪失や希望を抱いてきたように、近藤もまた「描くこと」によって自らの現実に向き合い、感情の再生と回復を求めてきました。そのように描かれてきた絵画は、抗いがたい出来事や合理性の追求によって取捨されてしまう人間性を喚起し、見る者の心に光を与えることでしょう。

本展では、街の人々が芸術を身近に親しむ当館の様子から触発された新作を中心に、近藤の新旧作を交えて人間を支える絵画の力と「生きること」のつながりに迫ります。



右上)《ほくの旅、わたしの旅》(参考) 2022年 キャンバスにアクリル絵具 個人蔵

右下)《みんななまえがあるんだね》(参考) 2023年 キャンバスにアクリル絵具 個人蔵

©Artist, Courtesy of ShugoArts Photo by Shigeo Muto

左)《ともだちになるためにほくらはここにいるんだよ》(参考) 2022年 パネルにアクリル絵具、森美術館蔵

©Artist, Courtesy of ShugoArts Photo by Shigeo Muto

作家略歴：

近藤亜樹 (こんどうあき) 1987年北海道生まれ。2012年東北芸術工科大学大学院修了。2020年より山形県在住。

主な展覧会に「わたしはあなたに会いたかった」(個展、シュウゴアーツ、2023年)、国際芸術祭「あいち2022」(2022年)、「星、光る」(個展、山形美術館、2021年)、「高松市美術館コレクション + 身体とムービング」(高松市美術館、2020年)、「絵画の現在」(府中市美術館、2018年)、「PHANTOMS OF ASIA: Contemporary Awakens the Past」(アジア美術館、サンフランシスコ、2012年)ほか。

主な受賞に、2021年 VOCA 奨励賞、2023年 絹谷幸二芸術賞がある。

企画：後藤桜子(水戸芸術館現代美術センター学芸員)

2. 若手作家を新作中心で紹介する個展シリーズ「クリテリウム」

「クリテリウム」シリーズでは、若手作家と当館学芸員との協働で、新作中心の展覧会を作り上げます。開館2年目の1992年から続く本シリーズは、新進作家を個展形式で紹介する先駆的な取り組みとして当初から注目され、のちに日本を代表することになるアーティストをこれまで多く輩出してきました。若手作家のキャリア早期において重要な役割を果たしてきた本シリーズの100回目と101回目を実施します。

4月1日（月）～ 5月6日（月・振）

クリテリウム 100 沼田侑香

～現実とデジタル世界の乖離や重なりを考えさせるインスタレーション～



「クリテリウム 100 沼田侑香」2024 撮影：縣 健司

二次元と三次元の領域と日常との関係性を、デジタルとアナログの観点から考察し作品を制作する沼田侑香を紹介します。

企画：畑井恵（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

11月2日（土）～ 1月26日（日）

クリテリウム 101 渡邊拓也



参考図版：Work-In-Progress in London, 2024-

企画：竹久侑（水戸芸術館現代美術センター芸術監督）

2. 地域連携事業

多様なかたちをもつ現代美術は、ときに展示空間を飛び出し参加型のプロジェクトとして、人と人が出会い、つながる場を開いてきました。現代美術センターでは地域の人々と連携し、地域についてともに見つめ直すアートプロジェクトを実施しています。

4月27日（土）

日比野克彦「HIBINO CUP」

会場：水戸芸術館広場

～工作とスポーツが一緒に楽しめる！ 日比野克彦発案のアートイベント～



共催：HIBINO CUP実行委員会 撮影：仲田絵美

日比野克彦の示すテーマにそって、チーム毎にゴールとボール、ユニフォームを制作し、それらを使って独自ルールでのミニサッカーで競い合います。サッカーの勝敗だけでなく制作の創意工夫も表彰の対象に。親子や友人同士でお楽しみいただけます。

6月～11月

日比野克彦「明後日朝顔プロジェクト2024 水戸」

会場：水戸芸術館2階回廊を拠点に、水戸市民会館と京成百貨店でも実施

～朝顔の育成を通して、人と人、人と地域、地域と地域がつながる～

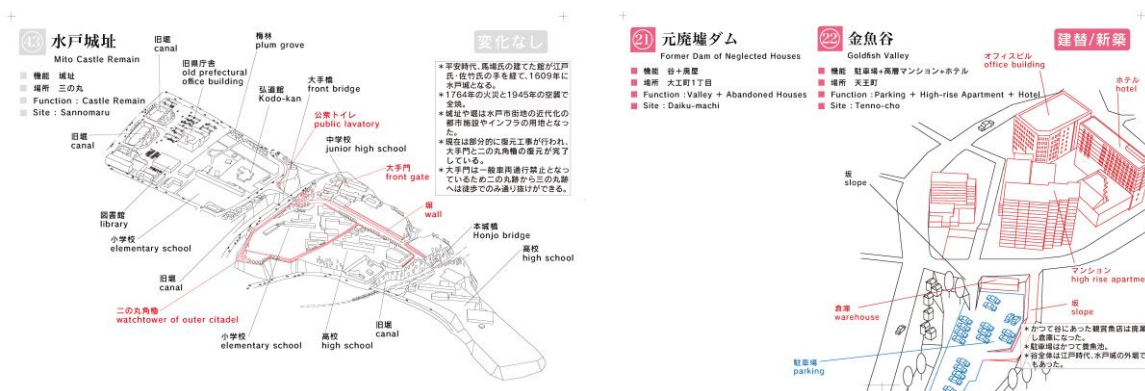


共催：明後日朝顔プロジェクト水戸実行委員会、水戸市民会館、(株)水戸京成百貨店 撮影：仲田絵美

2005年に当館で開催した「日比野克彦の一人万博」展を機に、新潟県十日町市筋平から水戸に渡った「明後日朝顔プロジェクト」は人と人、人と地域をつなぎます。昨年より水戸市民会館も加わり、MitoriOの3館連携で実施しています。

通年 続・水戸空間診断

水戸の中心市街地の変遷を調査し、水戸市の未来へと向けた提言をまとめ、2023年度事業「アートセンターをひらく 2023—地域をあそぶ」展にて発表した展示を元に報告書を作成し、当活動を総括します。



共催：水戸商工会議所

通年 ホーム・ムービング！

市民の自宅に眠る8ミリフィルムの収集を継続するとともに、フィルムを鑑賞しながら対話する「みとアカカブの会」を昨年に引き続き実施し、収集してきた資料の整理・保存を推進します。また、高齢者向けのプログラム等でも積極的にフィルムを活用します。



みとアカカブの会の様子 撮影：山野井咲里 (左) 当館現代美術ギャラリー ワークショップ室
(右) はなそう (水戸市南町)

共催：水戸商工会議所

3. 教育普及事業

～さまざまな年齢層とコミュニティに向けて、現代美術の楽しさを伝える～

現代美術の楽しさを伝えるための活動をアーティストや市民とともに行います。現代美術が示す多様な価値観は、これまでの考え方が揺らぐ時代に思索の時と場を提供します。また、創造と想像の喜びは日常をより豊かなものにします。市民のみなさんからの声から工夫をしながら、さまざまな年齢層、コミュニティにプログラムを提供します。

●高校生ウィーク（4月・3月）

～高校生を中心とした多世代が美術館活動に触れ、多様な価値観に出会う企画～



2016年 会場風景 撮影：仲田絵美

春休み期間にあわせて開設してきた、来場者がどなたでも利用できる恒例の交流スペース。

高校生と大人を対象としたアーティスト・ワークショップ、市民主導の部活動も実施します。「須藤玲子：NUNOの布づくり」展と「近藤亜樹 展」会期中の開催です。

●造形実験室（月2回）

～毎月、異なる素材や技法で造作を楽しむ集いの場～



2023年12月の様子 撮影：山野井咲里

身の回りにある様々な素材をテーマに造形を楽しむ企画。

子ども、大人、高齢者、障害のある人など、様々な人が出会う交流の場として、市民ボランティアとともに定期的に開催します。

●アーティスト・ワークショップ

～アーティストのアイデアに触れながら、もの作りを楽しみ、日常を楽しむ創造力を磨こう～



菅谷絵画ワークショップ「鳴る色」「夏のこらぼ・らぼ」2023年の様子 撮影：山野井咲里

展覧会にあわせて企画するアーティストによるワークショップをはじめ、ものを作り、考えを共有するワークショップを行います。多様な視点を示すアーティストの価値観に触れながらものを作ることは、心の開放にもつながり、また日常を楽しむアイデアをもたらします。

① 暮らしと作るを考える（6月～7月、10月～11月）

地域に住むアーティストのアトリエを訪問し、その暮らしと制作の様子を見学し、一緒にものづくりをするプログラム。アーティストの考えに触れ、制作も楽しみながら参加者が自らの暮らしを豊かに過ごすヒントを得られる機会とします。

② 「夏のこらぼ・らぼ」（8月）



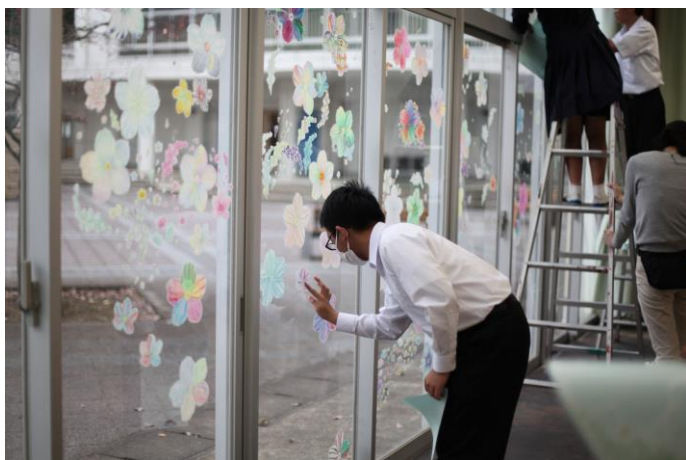
Oku Project ワークショップ「おく」「夏のこらぼ・らぼ」2023年の様子 撮影：山野井咲里

2011年の夏より続く、毎年夏休み期間にお届けするワークショップイベント。個展開催中の山下麻衣＋小林直人の二人をはじめ、美術と美術館の楽しみ方を伝えるワークショップを実施します。

●小中学生のための学校訪問アートプログラム（9月～1月）

会場：各小中学校

～当館から学校に出向き、アートプログラムをお届けします！～



菅谷朝絵ワークショップ 2023年の様子 撮影：仲田絵美

当館で開催する展覧会にちなんだアーティストによるワークショップから、市民ボランティアによる対話型鑑賞、学芸員によるレクチャーまで、学齢別に多彩なアートプログラムを用意し、美術を通じたアクティブラーニングの機会を子どもたちに届けます。

●視覚に障害がある人との鑑賞ツアー「session！」（2月～3月）

～見える人と見えない人がともに対話を通して鑑賞するツアー～



「今村源 遅れるものの行方」（2023年）での実施の様子 撮影：山野井咲里

水戸市に住む全盲の美術鑑賞者・白鳥建二がナビゲーターを務める、見える人と見えない人が対話しながら作品を鑑賞するツアー。障害の有無に関わらず、居合わせた人同士が奏でるコミュニケーションを楽しみます。

本年度は「近藤亜樹 展」で実施します。

※この取組は2021年度から中学3年生の道徳の教科書（光村図書版）に掲載されています。また、2022年度本屋大賞ノンフィクション本大賞を受賞した『目の見えない白鳥さんとアートを見にいく』（川内有緒著）や映画『目の見えない白鳥さん、アートを見にいく』（監督：三好大輔、川内有緒）をはじめ、白鳥氏の活動は多くのメディアで紹介され、見えない人との鑑賞活動は広く注目を集めています。

●ブリッジアートとケアをつなぐ

～誰もが現代美術に親しむためのプログラム～



聴覚に障害のある方たちとの鑑賞プログラム「美術と手話」 2020年の様子

子育て世帯や高齢者を取り巻く諸問題などにより来館が難しい現状にある層の来館を促すために、「アートとケア」をテーマとしたプログラムを行います。ケアに関わる人々にアートを通じて楽しむ時間を提供するとともに、個人が直面する尊厳や社会問題について考える機会や、対話の場を提供します。

① 赤ちゃんと一緒に美術館散歩（年4回）



「今村源 遅れるものの行方」(2023年)での実施の様子 撮影：山野井咲里

乳幼児とその保護者が安心して参加できる展覧会鑑賞ツアー。参加者のペースに添って、展覧会をご案内、乳幼児ケアのサポートをします。担当するのは館内係員 ATM フェイスと市民ボランティアです。

② 認知症当事者やその家族等を対象とした鑑賞プログラム（通年）

認知症当事者やその家族、福祉施設の介助者を対象とした鑑賞プログラムを実施します。

③ 特別支援学校との連携（通年）

展覧会鑑賞のための来館や校内作業を通じた地域社会とのつながりの創出等を行います。

●共創拠点（みんなのアートセンター）

展覧会やワークショップなどの事業を軸に、市民が自身の関心や経験を活かして主体的に活動し、共創するためのプラットフォームを設けます。

① 「CAC ギャラリートーカー」による対話型鑑賞プログラム（通年）



市民ボランティア「CAC ギャラリートーカー」による対話型鑑賞のギャラリートークを実施します。災害や戦禍をはじめ、一つの正解を導けない課題を多く抱える現代、作品の前で私たち一人ひとりが感じ、考え、他者と対話を交わす時間と空間はますます重要になっているでしょう。

② 造形ボランティア（通年）



撮影：山野井咲里

「造形実験室」を中心に館の内外で、作ることの楽しさを味わいながら、参加者の造形活動を支えるボランティア活動です。素材や人との出会いを楽しむ場所や関係づくりを促進します。

③ 乳幼児ケア（通年）



撮影：山野井咲里

館内係員 ATM フェイスの有志チームと一緒に、来館する乳幼児や保護者のケアを担う市民ボランティアです。それぞれのバックグラウンドを生かした多様なかわりで、豊かな美術館時間を創出します。

④ カフェスタッフ (通年)



高校生、大学生から一般までの多世代にわたるボランティアが「高校生ウィーク」のカフェの中で、造作と交流が営まれる場の運営をします。

⑤ 部活動 (通年)



自主的な創作や交流の楽しみをほかの来館者へと広げる活動を行います。現在は「ほんでたいわ部」や「織り部」などが年間を通じて活動しています。

⑥ ふえいすらぼ (通年)



展覧会事業をきっかけに始まった当館案内係フェイス有志によるグループ「ふえいすらぼ」による手芸品の制作と販売を行います。

●よみものアーカイブ（通年）



視覚に障害がある人との鑑賞ツアー「session!」2019年

当センターの特徴ともいえる好評のプログラムをわかりやすく紹介するウェブサイト・ページを作成し、その魅力を多くの人びとに伝えます。今年度は「session!」についての記事を公開し、また開館間もない1992年から活動してきたCACギャラリー・トークターの活動に着目し、トークターへのインタビューを進めます。

4. 椿昇+室井尚《飛蝗（プロジェクト・インセクト・ワールド）》

修復・公開事業

当館所管作品である全長50mのバッタ《飛蝗（プロジェクト・インセクト・ワールド）》を、修復しながら記憶とともに継承するプロジェクトを実施しています。

通年

椿昇+室井尚《飛蝗（プロジェクト・インセクト・ワールド）》修復・公開プロジェクト

会場：水戸芸術館広場 他



2024年3月修復・公開第二弾にて触角が立った様子 撮影：顧 剣亨

全長50mの巨大なバッタ《飛蝗（プロジェクト・インセクト・ワールド）》は、当館の所管作品です。屋外展示のため避けることのできない経年劣化により修復が必要となった本作を、本作にまつわる記憶とともに世代を超えて受け継ぐため、修復・公開プロジェクトを実施しています。

地域共催事業

1. 第55回水戸市芸術祭

水戸市民による芸術の祭典「水戸市芸術祭」。今年度は、28プログラムのうち10プログラムを水戸芸術館で開催し、約3ヶ月にわたり多数の市民が参加して日頃の活動の成果を披露します。

主催：水戸市文化振興協議会、水戸市、水戸市教育委員会、（公財）水戸市芸術振興財団、茨城新聞社

5月17日（金）～19日（日）

いけばな展

会場：現代美術ギャラリー

出品流派：龍生派、古流松應会、花芸安達流、広山流、池坊、小原流、草月流

5月28日（火）～6月7日（金）、6月12日（水）～23日（日）

美術展覧会

第1期：日本画・洋画・彫刻・工芸美術（5月28日～6月7日）

第2期：書・写真・デザイン・インスタレーション（6月12日～23日）

日本画や洋画、書、写真など幅広いジャンルにわたり、多数の応募作品の中から選ばれた力作を2期に分けて展示します。

会場：現代美術ギャラリー

出品者：水戸市民による公募

6月9日（日）

謡と仕舞の会

劇場内の能舞台上で、各流派による素謡、連吟、仕舞のほか鼓や笛の公演を行います。

会場：ACM 劇場

出演：観世流、金春流、宝生流

6月16日（日）

三曲各流演奏会

琴、尺八、三味線の演奏会です。社中合同の演奏会や現代曲を邦楽にアレンジしたものなど多彩なプログラムを披露します。

会場：ACM 劇場

出演：生田流、山田流、琴古流、新都山流

7月7日（日）

バレエフェスティバル

バレエ教室に通う幼稚園児から高校生までの子どもたちが、日頃のレッスンの成果を披露します。

会場：ACM 劇場

出演：市内バレエ教室

7月20日（土）、21日（日）

市民音楽会

市内で音楽活動している団体がピアノやギター、オカリナなど多彩な楽器演奏を行います。

会場：コンサートホール ATM

出演：水戸市内の音楽団体

8月4日（日）

合唱フェスティバル

市内の合唱団が参加し、豊かなハーモニーで彩ります。

会場：コンサートホール ATM

出演：水戸市内の合唱団体

8月16日（金）～18日（日）、8月23日（金）～25日（日）

演劇フェスティバル

市内を中心に活動する劇団が2週にわたってそれぞれの持ち味を活かした演目を披露します。

会場：ACM 劇場

出演：茨城大学演劇研究会、演劇フェスティバル実行委員会 他

8月18日（日）

ジュニアオーケストラ演奏会

小学生から高校生までの子どもたちで編成された、40年以上の歴史のあるオーケストラが、大人顔負けの熱演を披露します。

会場：コンサートホール ATM

出演：水戸ジュニアオーケストラ

8月25日（日）

交響楽演奏会

県内の音楽愛好家を中心になって創立し、50年以上の歴史をもつオーケストラ、「茨城交響楽団」による演奏をお楽しみいただきます。

会場：コンサートホール ATM

出演：茨城交響楽団

2.その他の地域共催事業

エントランスホールや劇場、コンサートホールにて、地域の人々と協力して行う事業や、地域の子供たちが参加する様々な事業を行います。

6月～7月

「水戸の梅まつり 写真コンテスト」入賞作品展

水戸の梅まつり期間中に偕楽園・弘道館公園内で撮影された写真コンテストの入賞作品を展示します。

会場：エントランスホール

主催：水戸の梅まつり実行委員会、茨城県カメラ商組合

10月5日（土）、6日（日）

第39回水戸映画祭

水戸ではあまり鑑賞する機会の少ない話題作を上映する、映画ファン必見のイベントです。

会場：ACM 劇場

主催：NPO 法人シネマパンチ、水戸映画祭実行委員会

9月～10月

花の絵コンクール作品展

水戸市住みよいまちづくり推進協議会が中心となって開催している「花いっぱい運動」の一環として公募した絵画作品の展覧会です。保育所（園）、幼稚園児及び小・中学校の児童、生徒の優秀作品を展示します。

会場：エントランスホール

主催：水戸市住みよいまちづくり推進協議会

11月6日（水）

水戸市立第二中学校 清流祭合唱コンクール

水戸市立第二中学校による合唱コンクールです。

会場：コンサートホール ATM

主催：水戸市立第二中学校

1月～3月

各種大会受賞記念小中学校演奏会

吹奏楽コンクール等で優秀な成績を収めた吹奏楽部などが受賞を記念して開催するコンサートです。

会場：コンサートホール ATM

主催：各小中学校

1月～3月

第23回大手橋プラムコンサート

地元の市立第二中学校及び三の丸・五軒・柳河各小学校の吹奏楽部、合唱部等による合同の演奏会を開催します。

会場：コンサートホール ATM

主催：大手橋プラムコンサート実施委員会

2月～3月

水戸・高松親善都市 児童生徒美術展覧会

水戸市と高松市の交流を図るため、両市の児童生徒が描いた作品を展示します。

会場：エントランスホール

主催：水戸市、高松市、水戸市教育委員会

3.広場での催事

街の中の憩いの広場として、賑わいをもたらす市民参加の音楽会や各種イベントなどを地域の団体や人々と協力して行います。

通年

水戸芸術館ライトアッププロジェクト

2016年10月よりスタートした、水戸芸術館のライトアップ企画。塔とカスケード（噴水）に、季節や時間などによって変化するさまざまなプログラムを施し、鮮やかな光のアートを生み出します。

4月20日（土）、21日（日）

あおぞらクラフトいち Spring in 水戸

県内外で活動しているクラフト作家による手作り作品の展示・販売のほかアコースティックライブ、ワークショップなどを行います。

主催：あおぞらクラフトいち実行委員会

5月3日（金・祝）

水戸まちなかフェスティバル 2024 ～帰ってきたストリート文化祭～

アート、ワークショップ、グルメ等をテーマとした出店や、学生や市民によるステージイベントなどを開催します。

主催：水戸まちなかフェスティバル実行委員会

5月の第5金曜日、6月、9月の第4金曜日

茨城県警察音楽隊「金曜コンサート」

茨城県警察音楽隊による吹奏楽コンサート。クラシック、ポップス、フォークなど幅広いレパートリーで子どもからお年寄りまで気軽に楽しめるコンサートです。

主催：茨城県警察音楽隊

5月、6月、10月、11月の第4土曜日

アートタワーマーケット

リサイクル品や、アマチュア作家によるクラフト品を中心としたフリーマーケットです。

主催：アートタワーマーケット実行委員会

6月8日（土）

アカペラフェスティバル in 水戸 2024

県内外からアカペラグループが集まり、自慢の歌声を披露します。

主催：アカペラフェスティバル in 水戸 実行委員会

6月22日（土）

水戸市環境フェア 2024

環境に関する展示やPRブースの出店のほか、ファーマーズマーケットやアートタワーマーケットを開催します。

主催：水戸市環境フェア実行委員会

6月

水戸野外映画上映会

秋の夜空の下、特設大スクリーンでご覧いただく野外上映会。開放的な空間とゆったりと流れる時間…大人から子どもまで楽しめるアットホームな映画とともにのんびりとお過ごしください。

主催：水戸クリエイティブウィーク実行委員会

7月14日（日）

五軒サマーナイトコンサート&ふれあいまつり

地元の五軒地区の夏の音楽祭。幼稚園児から小・中・高校生、市民のコーラスグループ、水戸太鼓保存会など各種音楽団体が広場ステージで演奏します。

主催：ふあいぶたうんコミュニティ

10月26日（土）

MitoriO フェスティバル

ファーマーズマーケット、キッチンカーの出店、アートタワーマーケットそして市民によるステージイベントなどを行います。

主催：MitoriO にぎわい推進協議会

11月30日（土）、12月1日（日）

全国ねぎサミット in みと

全国の主要なねぎ産地によるねぎを始めとした特産品やグルメのブース出店、ステージイベントなどを行います。

主催：全国ねぎサミット in みと実行委員会

12月15日（日）

水戸の街に響け！ 300人の《第九》 2024

※詳細は、音楽部門事業概要（P.10）をご覧ください。

中心市街地活性化事業

昨年7月に開館した水戸市民会館、京成百貨店、そして当館の連携によって、3つの施設から成る愛称「MitoriO(ミトリオ)」地区の振興と中心市街地の活性化に寄与してまいります。

4月27日(土)、6月～11月

日比野克彦「HIBINO CUP」

日比野克彦「明後日朝顔プロジェクト2024 水戸」

※詳細は、美術部門事業概要(P.41)をご覧ください。

12月17日(火)

樫本大進(ヴァイオリン)&ラファウ・ブレハッチ(ピアノ)

会場：水戸市民会館グロービスホール(大ホール)

※詳細は、音楽部門事業概要(P.13)をご覧ください

2月24日(月・祝)

サイトウ・キネン・オーケストラ プラス・アンサンブル

会場：水戸市民会館グロービスホール(大ホール)

※詳細は、音楽部門事業概要(P.13)をご覧ください

<通年>

続・水戸空間診断

※詳細は、美術部門事業概要(P.42)をご覧ください

ホーム・ムービング!

会場：水戸芸術館現代美術ギャラリー 他

※詳細は、美術部門事業概要(P.42)をご覧ください

水戸芸術館フラワーアートイベント —MIX & PASSAGE—

会場：水戸芸術館会議場前庭



水戸市民会館に隣接する当館会議場前庭を季節の花々で彩り、お客様を華やかにお待ちしております。

水戸芸術館・水戸市民会館 見学ツアー

会場：水戸芸術館、水戸市民会館



共催：水戸市民会館

当館および水戸市民会館のそれぞれの施設をご案内するツアーを開催しています。

水戸芸術館・水戸市民会館 名建築を撮影しよう！

会場：水戸芸術館、水戸市民会館

当館の写真をこれまで撮り続けてきた写真家・田澤 純を講師に、当館および水戸市民会館の魅力的な建築を撮影するワークショップを行います。

共催：水戸市民会館

MitoriO ラッピングバス運行



MitoriO 地区を広く周知し親しんでいただくために、アーティストの日比野克彦氏がデザインを手がけたラッピングバスを、茨城交通株式会社の車両 2 台により運行します。

吉田秀和賞

「吉田秀和賞」について

音楽を中心に芸術評論に多大な功績のあった吉田秀和水戸芸術館初代館長の名を冠し、1990年に創設された吉田秀和賞は、芸術文化の振興を目的として、吉田秀和芸術振興基金において優れた芸術評論に対して賞の贈呈をしてまいりました。2013年度からは、当財団が運営し、本年度は、第34回目の審査を行います。

審査委員 片山杜秀 評論家・慶應義塾大学法学部教授

審査委員 堀江敏幸 作家・早稲田大学文学学術院 文化構想学部教授

受賞作品

- 第1回（1991年 平成3年度） 秋山邦晴『エリック・サティ覚え書』青土社 1990年6月刊
- 第2回（1992年 平成4年度） 持田季未子『絵画の思考』岩波書店 1992年4月刊
- 第3回（1993年 平成5年度） 該当作品なし
- 第4回（1994年 平成6年度） 渡辺 保『昭和の名人 豊竹山城少掾』新潮社 1993年9月刊
- 第5回（1995年 平成7年度） 松浦寿輝『エッフェル塔試論』筑摩書房 1995年6月刊
- 第6回（1996年 平成8年度） 長木誠司『フェッルッチョ・ブゾーニ』みすず書房
1995年11月刊
- 第7回（1997年 平成9年度） 伊東信宏『バルトーク』中央公論社 1997年7月刊
- 第8回（1998年 平成10年度） 該当作品なし
- 第9回（1999年 平成11年度） 青柳いづみこ『翼のはえた指 評伝 安川加壽子』白水社
1999年6月刊
- 第10回（2000年 平成12年度） 小林頼子『フェルメール論 一神話解体の試み』八坂書房
1998年8月刊
小林頼子『フェルメールの世界 17世紀オランダ風俗画家の軌跡』日本放送出版協会 1999年10月刊
- 第11回（2001年 平成13年度） 加藤幹郎『映画とは何か』みすず書房 2001年3月刊
- 第12回（2002年 平成14年度） 該当作品なし
- 第13回（2003年 平成15年度） 岡田温司『モランディとその時代』人文書院
2003年8月刊
- 第14回（2004年 平成16年度） 湯沢英彦『クリスチャン・ボルタンスキー 死者のモニュメント』水声社 2004年7月刊
- 第15回（2005年 平成17年度） 宮澤淳一『グレン・グールド論』春秋社 2004年12月刊
- 第16回（2006年 平成18年度） 有木宏二『ピサロ／砂の記憶 一印象派の内なる闇』
人文書院 2005年11月刊
- 第17回（2007年 平成19年度） 該当作品なし

- 第18回（2008年 平成20年度） 片山杜秀『音盤考現学』アルテスパブリッシング
2008年2月刊
片山杜秀『音盤博物誌』アルテスパブリッシング
2008年5月刊
- 第19回（2009年 平成21年度） 岡田暁生『音楽の聴き方』中央公論新社 2009年6月刊
- 第20回（2010年 平成22年度） 白石美雪『ジョン・ケージ 混沌ではなくアナキー』
武蔵野美術大学出版局 2009年10月刊
- 第21回（2011年 平成23年度） 椎名亮輔『デオダ・ド・セヴラック 南仏の風、郷愁の音画』
アルテスパブリッシング 2011年9月刊
- 第22回（2012年 平成24年度） 新関公子『ゴッホ 契約の兄弟 フィンセントとテオ・ファン・
ゴッホ』ブリュッケ 2011年11月刊
- 第23回（2013年 平成25年度） 末永昭和『評伝 ジャン・デュビュッフェ アール・ブリュッ
トの探求者』青土社 2012年10月刊
- 第24回（2014年 平成26年度） 通崎睦美『木琴デイズ 平岡養一「天衣無縫の音楽人生」』
講談社 2013年9月刊
- 第25回（2015年 平成27年度） 榎木野衣『後美術論』美術出版社 2015年3月刊
- 第26回（2016年 平成28年度） 立花 隆『武満徹・音楽創造への旅』文藝春秋 2016年2月刊
- 第27回（2017年 平成29年度） 平芳幸浩『マルセル・デュシャンとアメリカ
—戦後アメリカ美術の進展とデュシャン受容の変遷—』
ナカニシヤ出版 2016年7月刊
- 第28回（2018年 平成30年度） 堀 真理子「改訂を重ねる『ゴドーを待ちながら』—演出家とし
てのベケット—」藤原書店 2017年9月刊
- 第29回（2019年 令和1年度） 沼野雄司『エドガー・ヴァレーズ—孤独な射手の肖像』
春秋社 2019年1月刊
- 第30回（2020年 令和2年度） 柿沼敏江『<無調>の誕生 ドミナントなき時代の音楽のゆくえ』
音楽之友社 2020年1月刊
荒川 徹『ドナルド・ジャッド—風景とミニマリズム』
水声社 2019年7月刊
- 第31回（2021年 令和3年度） 前田良三『ナチス絵画の謎—逆襲するアカデミズムと
「大ドイツ美術展」』みすず書房 2021年3月刊
- 第32回（2022年 令和4年度） 新井高子『唐十郎のせりふ 二〇〇〇年代戯曲をひらく』
幻戯書房 2021年12月刊
- 第33回（2023年 令和5年度） 藤原貞朗『共和国の美術—フランス美術史編纂と保守／学芸員の
時代—』名古屋大学出版会 2023年2月刊



公益財団法人 水戸市芸術振興財団
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL : 029-227-8111 FAX : 029-227-8110
E-mail : kouhou@arttowermito.or.jp
<https://www.arttowermito.or.jp/>